

# 地方村落給水計画

## 実施地域

ヨボギ、アス・エイラ、アリ・アデ、デューレ



## 1. プロジェクト要請の背景

ジブティは、アフリカ北東部のアフリカの角に位置し、国土が主に砂漠と山岳地帯から構成されている。沿岸部においては地下水に海水が進入し、内陸部においては土中の塩分が溶解しているため、揚水可能な水脈は非常に限定されている。このため、水源は村落から5～20kmも離れているなど、地域住民の給水事情は劣悪な状態にあり、ジブティ政府は水源開発及び地方村落における生活用水供給を優先的課題と位置づけている。

このような状況のもと、ジブティ政府は、地方村落での給水事情の改善を図ることを目的として、地方村落における給水施設の整備・改善のための無償資金協力を我が国に要請してきた。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1995年度～1996年度

### (2) 援助形態

無償資金協力

### (3) 相手側実施機関

農業水利開発省

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

地方村落の住民の生活水準が改善される。

#### 2) プロジェクト目標

地方村落の給水事情が改善される。

#### 3) 成果

- a) 給水施設改善用機材(ポンプ、発電機)が整備される(16地点)
- b) 地下水調査用機材が整備される。

- c) 給水施設が建設される(4か村)
  - d) 給水施設の維持管理体制が整備される。
- 4) 投入

#### 日本側

E / N 供与限度額 合計 9.72 億円

#### ジブティ側

土地  
施設維持管理人員  
ローカルコスト

## 3. 調査団構成

JICA フランス事務所

(現地コンサルタント：アースアンドヒューマンコーポレーションに委託)

## 4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年9月5日～1998年9月13日

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

給水施設の工事は予定どおり工期内に完工し、ジブティ側に引き渡された。

### (2) 目標達成度

給水施設改善用機材については、発電機はすべて村落に配備済みで、水中ポンプも順次取り替えが進んでおり、大半が使用されている。

給水施設は、村によって利用状況が異なるが、燃料不足などの理由によって、一部に稼働率の低い施設もある。

### (3) 効果

水汲みに来た女性たちが集い、住民間のコミュニ

ケーションがとられるようになった。給水事情改善によって、内戦後の再定住化が促進され、人口が増加している村もある。

その一方、共同水栓方式では、水栓から遠い住民は水汲みの労働負荷が大きく、また、限られた水源をめぐる小さな衝突も見られる。

#### (4) 計画の妥当性

住民の給水事業へのニーズは、本プロジェクトで整備された共同水栓ではなく戸別給水にあるが、ジブティの村落部では常に水不足の問題があり、近年終了した内戦後の復興を支援するうえでも、本プロジェクトは妥当であり、整備された給水施設や機材は今後も活用されていくと思われる。

#### (5) 自立発展性

各村落では、水料金の徴収は行われておらず、給水にかかる経費は原則として全額国家負担である。水管理委員会が組織されている村もあるが、機能していない。ジブティでは構造調整が実施されており、緊縮財政となっているため、ポンプの燃料供給や施設管理人への給料の遅配などが起こっている。

このような状況を改善するには、住民との対話を進め、住民を巻き込んだ水管理委員会を組織し、受益者が経費を負担する仕組みを導入する必要がある。

## 6. 教訓・提言

### (1) 教訓

住民集会の開催などにより住民の声やニーズを事前に十分把握し、計画に反映するべきである。住民との対話の促進が、整備された施設の利用や自立発展性確保のうえで非常に重要である。

ジブティのような乾燥地では、揚水テストを雨期だけでなく、乾期にも実施することが望ましい。

### (2) 提言

給水施設の維持管理には受益者からの水道料金の徴収が不可欠であるが、これまで無料で水を利用してきた住民から料金を徴収するのは容易でない。地道に啓発活動を行い、住民参加の範囲を着実に拡大していくことが必要であろう<sup>1)</sup>。



共同水栓



共同水栓

注1) 現在、村落によっては、水管理委員会が機能しており、住民が水道料金の徴収を行い、その資金で燃料を捻出している。